平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

１．学校概要

学校名　　宇城市立不知火中学校
（※正式名称を記載）
種　別　☐保育園・幼稚園　☐小学校　☐小中一貫※注１
☑中学校　☐中高一貫※注２　☐高等学校
☐教員養成大学　☐専修学校、各種学校
☐特別支援学校
☐その他（例：小中高一貫　　）
※注１ 義務教育学校を含む　※注２ 中等教育学校を含む
所在地　〒８６９－０５６２
熊本県宇城市立不知火町長崎４５番地
E-mail　siranuhityu-d@tsubaki.higo.jp
Website
幼児児童生徒数　男子　１１１名　女子　８２名　合計　１９３名
幼児・児童・生徒の年齢　１２歳～　１５歳

２．報告期間

平成２９年４月～平成３０年３月
※報告書提出時点～平成３０年３月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

３．活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（１）活動の概要（８００字程度＋活動内容を表す写真数枚）
※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「『共生』と『自律』そして『夢への挑戦』」を学校目標として、ＥＳＤを人間関係づくりと捉え、ＥＳＤの実践を通して目標を持ち、自らを高める生徒の育成をめざした。

具体的には、確かな学力の育成、豊かな心の育成、安全・健康教育の推進、開かれた学校づくりを柱に、①平和・人権に係わる活動、②防災に係わる教育、③地域の伝統文化に係わる学習、④食育に係わる学習を行った。

① 平和・人権に係わる活動

３年生は総合的な学習の時間に戦争と平和についての学習を行った。今年戦後７２年、戦争を知らない子ども達も増えてきた。いかに戦争がすべてのものを奪ってしまうものなのか、平和がどれだけありがたいものなのかを、周りの人への感謝の心と共に「未来に生きるものたちへ」という劇を通して、考えていくものだった。

② 防災に係わる教育

１年生の総合的な学習の時間では「地域から学ぼう」というテーマで、平成１１年の台風１８号による高潮被害や平成２８年の熊本地震を経験し、地域の災害や未来についての予測やデータをもとに、避難する際の注意点なども自分たちで調べ、発表に至った。また、防災教育を身近なものとしてとらえさせるためのクロスロードを活用した参観授業を実施し、地域教育コーディネーターの指導の下、自分の考えや他者の考えの違いなどを理解し、防災に対する考えを深めた。

③ 地域の伝統文化に係わる学習

１年生は地域の伝統文化や史跡について学習し、地域の伝統芸能を継承する方へのインタビューや取材を通して、地域の伝統芸能の由来や楽器の説明をし、全校生徒の前で伝統芸能の「ちょぼくれ」を披露することができた。また、夏休みを利用し、地域の特産物や朝市の様子をインタビューしたり、史跡や神社を回ったりして、写真や記録をとって、発表につなげることができた。

④ 食育に係わる学習

「弁当の日を楽しもう」ということで、食や食事作りを担っている家族への感謝の心を育てる取り組みを行った。自分で献立を考え、主食、主菜、副菜をどう組み合わせるのかなどの４項目を設定し、５つのレベルで弁当づくりにチャレンジした。年に３回重ねることで、反省や気づきなどを書きながら、食の大切さを理解していった。また、学級では楽しそうに自分の作った弁当を食べる姿やみんなに紹介する生徒の姿が見られた。

① 戦争についての劇（３年）

② 災害について学年発表

③ 伝統芸能発表（文化発表会）

④ 弁当の日（学級にて）

（２）活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア．活動分野（複数選択可）

□ 1. 環境	□ 2. エネルギー	☑ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
□ 5.気候変動	□ 6. 国際理解、文化多様性	☑ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	☑ 8. 人権・平和
□ 9. 健康・福祉	☑ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15.グローバルシチズンシップ教育（GCED）	
□16.ジェンダー平等	□ 17. その他（　　）		

イ．活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

□ 1. 批判的に考える力	□ 2.未来像を予測して計画を立てる力
☑ 3. 多面的、総合的に考える力	☑ 4. コミュニケーションを行う力
□ 5. 他者と協力する態度	☑ 6. つながりを尊重する態度
□ 7. 進んで参加する態度	
□ 8. その他（自由記入　　）	

ウ．活動時間（複数選択可）

□ 1. 教科の時間	☑ 2. 総合的な学習の時間
☑ 3. 特別活動等	□ 4. クラブ活動
□ 5. その他（自由記述　　）	

エ．使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

うき宇城　暮らしの情報ガイド
宇城市ホームページ
はだしのゲン
暮らしと災害
宇城市ハザードマップ

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校運営の校務分掌に ESD 教育担当を定め、特別活動や総合的な学習の時間、人権教育、安全・環境教育などの活動を統括し、年間計画の中にいつ、どの学年がどのような活動を行うのかを明記している。例えば、総合的な学習の時間では、１年生で「身近な地域を知ろう」２年生では「地域や自分自身を見つめ、将来を考える」３年生では「自分を深く見つめ、進路を切り拓く」というテーマで、各学年の活動や指導内容がわかるようにしている。また、生徒会活動との連携を図り、生徒が自ら計画し、実行できるように学年部や関係職員間での共通理解を図っている。学校行事に関しては、常に生徒会執行部との連携をはかり、校外的な活動に関しても、生徒が積極的に活動できるように事前事後の指導等に時間をかけている。

③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各学年で使用した指導計画や指導内容を学校共有フォルダーに保存するようにしている。このことで、学年が変わっても必要な資料やワークシート等を使用できるようになり、生徒の実態や担当学年の指導方針などによって変化させることもできる。また、共有の画像フォルダーに記録として残しておくことで、活動の様子を次年度に引き継ぐことができる。

④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

前期、後期の学校活動に関して、生徒、保護者、教職員にアンケート用紙を配り、評価集計を行っている。保護者が前期より上昇した項目は、教師への信頼や生徒の家庭学習の取り組み、安全環境の状況などであった。しかし、教職員の反省では、保護者参加の機会の確保や学校と保護者との連携が下がっていた。PTA 活動や授業参観、文化発表会などの保護者の参加はあるものの、マンネリ化の傾向が強いと思われる。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度）　※チェック事項 2-2 に対応

食育に関して、保護者や生徒に食育の意義を丁寧に周知したことで「弁当の日」を実施することができた。自ら弁当を作り、２回目にはレベルを上げる生徒が多くなった。担当者が ESD の研修会に参加し、ユネスコスクールの状況を教職員に周知し、県外からの応援メッセージや他校の生徒会の震災支援などの活動につながった。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ＥＳＤ活動支援センター、ＥＳＤコンソーシアムとの連携など）（２００字程度）
※チェック事項 2-3 に対応

地域の公民館と連携し、「地域の防災」について、クロスロードゲームを取り入れた防災教育を実施した。その際、地域教育コーディネーターにゲストティーチャーとして指導に入ってもらい、防災に対する生徒の理解が深まった。また、生徒会執行部に生徒会行事の進め方のスキル学習を定期的に実施してもらい、生徒会が意欲的に活動し、新入生説明会や小中連携の日の交流を自主的に行うことができた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

本校のホームページ開設が遅れているため、ネットワークでの交流は行えていない状況にある。必要なときにインターネットでの資料の閲覧や他校の実施状況などを参考にしながら、本校にできることをやっていこうと考えている。また、今後はホームページを開設し、生徒の学校活動の様子や地域と協力しながら参加できる活動を増やしていけるようにしていきたい。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（２００字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

校務分掌に ESD を位置づけ、教員にユネスコスクールについての共通理解が図られ、学校活動において、常に意識付けができるようになってきたことである。また、公民館館長によるスキル学習（ファシリテーター、マンダラート）などの技法の習得が、生徒会や教員のスキルアップと考えた方の変容につながったことである。

（３）平成 30 年度の活動計画（２００～４００字程度）

年間を通した生徒会スローガンをもとに、生徒会が中心となって学校行事を運営できる体制づくりを行う。生徒会活動と総合的な学習の時間の系連携がわかるように工夫する。また、諸教育の年間計画の見直しを行い、これまで実施してきた教育活動の無駄、無理を無くすように精選し、系統的に学習できるようにしていきたい。
学校ホームページの更新を定期的に行い、学校の教育活動の啓発を積極的にすすめる。